

中学校第2学年1組 国語科 学習指導案

期 日 平成22年10月4日(月) 第5校時
場 所 水上村立水上中学校 2年1組教室
指導者 教諭 岩崎 嗣道

1 単元名 事実と意見「モアイは語る ― 地球の未来」(光村図書2年P130～P137)

2 単元について

(1) 単元観

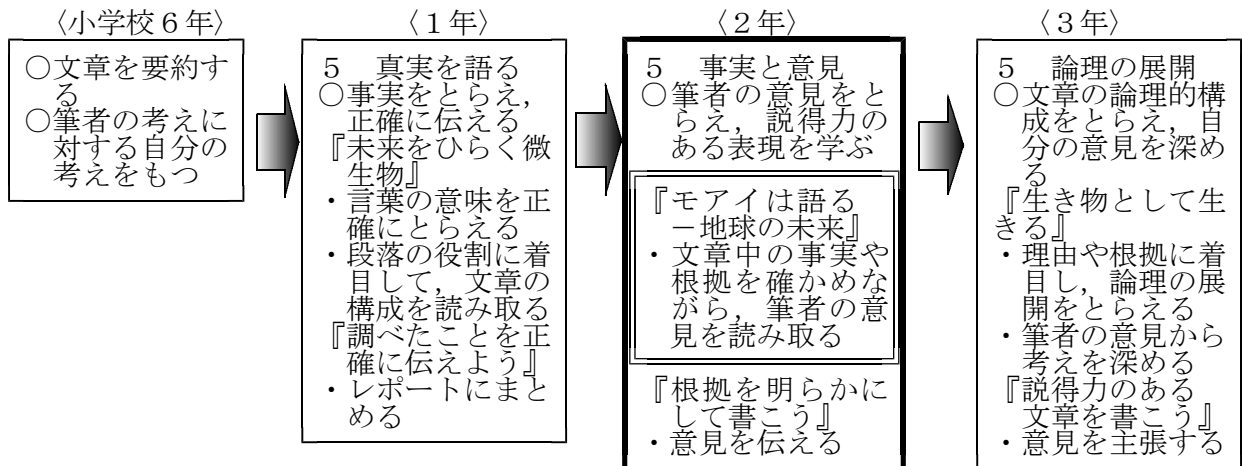
本単元は、読むこと「モアイは語る ― 地球の未来」(説明文)、書くこと「根拠を明らかにして書こう」、言語事項「自立語のいろいろ」(文法)、「熟語の成り立ち」(漢字)から構成されている。

森林資源の大切さについては改めて述べるまでもない。しかし、「モアイは語る ― 地球の未来」では、その周知の立場を、斬新な切り口からとらえ、しかもモアイ像で知られるイースター島で過去に起きた事実を根拠として述べている点が読み手を引きつける。

筆者は根拠となる事実をどのような手順で見いだしていったか、その事実は何を物語っていたのか、それは日本列島に生きるわたしたちにとって、また地球全体にとってどのような問題を投げかけているのか、それらを文章の展開に即して読み取り、筆者の考えを理解させたい。

わたしたちが意見を述べる際、自らの立場を明確にすることが大切である。そして、その根拠となる事柄をどのように提示していくかも重要である。自らの意見を主張するのに最も適した事例はどのようなことか、また反論は予想できないか、その反論に対する意見はどのように述べたらよいか、さらにはそれらをどのような構成でまとめあげていけばよいのか、などを考えていく。「モアイは語る ― 地球の未来」における文章構成の工夫を参考にしながら、生徒が互いに文章を読み合い、それぞれのよい点を自分の文章に生かしていけるような話し合いをもたせたい。

(2) 本単元の系統は次のとおりである。



(3) 本単元に係る生徒の実態は次のとおりである。

本学級は、女子14人、男子10人、計24人である。日常の授業において、進んで発表するなど意欲的に参加する生徒が多い。

国語に関するアンケート結果は、以下のとおりである。

①国語の授業は好きですか。

回 答	人数
好き。	6
だいたい好き。	10
あまり好きではない。	6
好きではない。	2

(授業で、考えを友だちと発表しあうときに)

③自分から進んで発表(説明)していますか。

回 答	人数
発表している。	6
だいたい発表している。	6
あまり発表していない。	8
発表していない。	4

②国語の授業はよく分かりますか。

回 答	人数
分かる。	8
だいたい分かる。	15
あまり分からない。	1
分からない。	0

④答えだけでなく考え方が分かるように説明していますか。

回 答	人数
分かるように説明している。	4
だいたい分かるように説明している。	8
あまり分かるように説明していない。	10
分かるように説明していない。	2

〈読むときに〉

⑤正しく音読をしていますか。

回 答	人数
正しく音読している。	12
だいたい正しく音読している。	10
あまり正しく音読していない。	2
正しく音読していない。	0

⑥文章を読むときに、正しく読み取ることができますか。

回 答	人数
正しく読み取ることができる。	9
だいたい正しく読み取ることができる。	12
あまり正しく読み取ることができない。	2
正しく読み取ることができない。	1

このアンケート結果から、生徒の意識から見ると、授業中の発表については半数の生徒があまり積極的ではないと考えていることが分かる。また発表の内容についても相手意識をもって発表しているかという点も半数がまだ不十分であると考えている。文章の読解についてはほとんどの生徒が正しくできていると答えている。しかし、国語の学習について、「あまり好きではない」「好きではない」と答えた生徒の半数は文章を読み取ることが苦手だと答えている。

昨年度（平成21年度）の熊本県学力調査における結果は、以下のとおりである。（％）

領域別定着率	本校	県平均
話すこと・聞くこと	76.2％	74.4％
書くこと	53.2％	47.5％
読むこと	60.4％	49.0％
言語事項	61.3％	59.9％

観点別定着率	本校	県平均
関心・意欲・態度	92.0％	72.2％
話すこと・聞くこと	71.5％	70.3％
書くこと	44.9％	31.7％
読むこと	56.2％	45.2％
言語事項	61.3％	59.9％

(4) 指導にあたっては、次の点に留意する。

本単元では以下の点に留意して指導を進める。

- 言語活動の充実を図る。今回は「読むこと」の領域、説明文の学習である。単元を通して、文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べる言語活動を取り入れていきたい。
- 音読は国語科で身に付けたい力の一つである。音読の力をしっかりと身に付けさせたい。そのために、言葉のまとまりを意識しながら、読む活動を単元を通して取り入れる。人前ではしっかりと読むことの大切さを伝え、意識しながら音読をできるようにしたい。
- ノート指導の充実を図る。これまでの学習のあとを振り返ることができるノート指導を心がけたい。授業の始まりまでにノートに決められた字数で前時の振り返りを書いておく。またその授業の終わりに、決められた字数で課題についての自分の考えを書くようにする。
- 文章読解を進めるためには、基本的な語彙力が必要である。語彙を広げるために、毎時間数分の時間をとり、教材の中から言語事項についての問題に取り組む。そのことで言語のスキルアップを図る。その問題を毎回ノートに記録していくことで、ノート指導の充実につなげていきたい。
- 学び合いの場の充実を図る。グループでの話し合い活動において、一つの課題に対して自分の考えを発表する場合、最も適切な解答を生徒同士で選ばせる。そして、最も適切な解答を書いた生徒が、どうしてその解答を導いたのか説明する。友達に対して自分の考えを説明することで、自分自身も自分の考えを振り返りまとめる力が必要となる。できた生徒にもう一度考えさせることで思考がさらに伸びていくと考える。
- 授業の初めに生徒に前時の振り返りを発表させる。そのことで、生徒一人一人に自分の考えをまとめて発表する力を付けさせたい。発表は出席番号順に行わせる。人前で堂々と話す力を付けていきたい。
- 単元の初めに学習全体の計画を提示し、見通しを持たせる。そのことで受け身ではなく自分から進んで学習に取り組んでいこうとする意欲をもたせたい。
- 道徳教育との関連においては、授業後、内容項目4－(2)と関連させ、道徳の学習を行う。地球温暖化等の環境問題がマスメディアなどで取り上げられ、環境問題は我々にとって身近な問題と言えるが、日常生活の中で具体的に問題意識をもち、よりよい社会を実現するために行動につなげているかという点個人でかなりの差がある。社会連帯の自覚とよりよい社会の実現について考え、行動化へつなげていきたい。

思考力、判断力、表現力等と言語活動

- ◎文章の内容や表現の仕方について考える力
- ◎根拠を明確にして自分の考えをまとめ、表現する力
- ◎自分のものの見方や考え方を深める力



「C読むこと」【言語活動Ⅱ】説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べること。

○文章の表現の仕方について考えさせることで、筆者の目的や意図についても考えさせたい。また、内容について考えさせることで、書き手のものの見方や考え方を自分の考え方と対比させることで、自分の問題としてとらえ直すことにつながり、自分のものの見方や考え方を深めていくと考える。

3 単元の目標と単元を貫く言語活動及び評価規準

単元の目標		◎文章中に述べられている事実や根拠を確かめながら、筆者の意見を読み取る。 ◎段落に着目し、文章の構成をとらえる。	
単元を貫く言語活動		◎説明的な文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べる。	
評価規準	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
	○文章から、目的や意図に応じて情報を集めようとするとともに、筆者の表現の仕方や内容から、自分の書く力を高めたり自己の見方や考え方を向上させたりしている。	◎文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめている。 ◎文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて考えている。	○抽象的な概念を表す語句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、語彙を身に付けようとしている。 ○文の中の文の成分の順序や照応、文の構成などについて考えている。
評価基準1	A：十分満足できる		B：おおむね満足できる
	【表現について】 ○「事実と考察」、「問いと答え」等、表現の仕方を二つ以上気づくことができる。 【内容について】 ○根拠を明確にして、友達が納得するように自分の考えを述べるることができる。		【表現について】 ○「事実と考察」、「問いと答え」等、表現の仕方を一つ気づくことができる。 【内容について】 ○根拠を示し、内容について自分の考えを述べるることができる。
評価基準2	A：十分満足できる		B：おおむね満足できる
	○第3のまとまりで、イースター島の文明の崩壊までの経過と照らして、地球の今後について筆者の主張を踏まえた要約を200字以内にまとめることができる。		○第3のまとまりで、地球の今後について、筆者の主張を踏まえた要約を200字以内にまとめることができる。

4 指導・評価の計画（12時間取扱い中、本時は第3時）

次	時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 項 目 (方 法)
1	1	○文章を通読し、モアイについて興味をもち、感想を交流する。	・モアイについての写真など資料を用意し、生徒の興味、関心を高める。 ・グループ活動の中で全ての生徒に感想を発表させる。	【関心・意欲・態度】 ○モアイについて興味や関心をもち、初発の感想を書いている。（ノート、観察）

モアイは語る — 地球の未来	2	○第2のまとまりの前半を読み、表現の仕方や内容について自分の考えを述べることができる。	・表現の仕方について着目させ、その特徴に気づかせる。 ・内容について、根拠を明確にして述べさせる。	【読む能力】 ○第2のまとまりの前半を読み、表現の仕方と内容についての考えを述べている。(ノート・観察)
	3	○第2のまとまりの後半を読み、表現の仕方や内容について自分の考えを述べることができる。	・表現の仕方について着目させ、その特徴に気づかせる。 ・内容について、根拠を明確にして述べさせる。	【読む能力】 ○第2のまとまりの後半を読み、表現の仕方と内容についての考えを述べている。(ノート・観察)
	4	○第3のまとまりでの筆者の主張を理解し、筆者の意見を要約する。	・「イースター島のこのような運命は、わたしたちにも無縁なことではない。」という筆者の意見の根拠を挙げさせる。	【読む能力・書く能力】 ○筆者の意見を200字程度で要約している。(ノート)

5 本時の学習

- (1) 目標 第2のまとまりの後半（P133L15～P135L5）を読み、表現の仕方や内容について自分の考えを述べることができる。
- (2) 展開

過程	学習活動 【学習形態】	主な発問・指示等	教師の指導及び評価	備考
導入 5分	1 前時の学習を振り返る。 【個人】	T 前時の学習を振り返って発表してください。 S 前時は、第2のまとまりの前半を読み、表現の仕方や内容の気づきを出し合いました。	○前時に学習したことを自分なりにまとめて発表する。	前時までの学習の掲示物 学習計画表 フラッシュカード ノート フラッシュカード (めあて)
	2 語句のスキルアップ学習を行う。 【一斉】	T 語句のスキルアップに挑戦しましょう。 S 今回は全問正解をめざそう。	○語句のスキルアップを通して語彙を増やすとともに、本文の内容の読み取りを確認する。 ○広用紙で学習を振り返り、本時の学習確認を行う。	
	3 本時のめあてを確認する。【個人】	◎ 第2のまとまりの後半を読み、表現の仕方や内容について考えを述べ合おう。		
展開 40分	4 第2のまとまりの後半を読む。 【個人】 ①個人で考える。 ↓ ②グループで考える。 ↓ ③全体で考える。	T 全員で一斉に音読しましょう。 S 声を合わせて読もう。 T 第2のまとまりの後半を読んで表現の仕方について気づきをノートに記入しましょう。 S 問いの後にそれに対する答えが書いてある。	○全員で一斉に音読させる。軽快にはっきりと読むことを意識させる。 ○挙手の仕方、音読する際の姿勢にも注意させる。 ※本文の内容や表現の仕方について自分の考えを持ち、友達と自分の考えを述べ合う。	

	5 表現の仕方について自分の考えを述べる。【個人】 ①個人で考える。 ↓ ②全体で考える。 6 内容について自分の考えを述べる。【個人→一斉】	S 事実と考察に分かれている。 S 事実と考察は、文末表現で区別することができる。 T 第2のまとまりの後半を読んでその内容についての気づきをノートに記入しましょう。 S 読み手を納得させる詳しい記述がある。 S 小さな花粉からいろいろなことがわかるとはすごい。 S 森の消滅が文明の崩壊につながることは初めて知った。	○個人で考える際、まず教科書にサイドラインを引かせる。その後、ノートに根拠をはっきりさせながら自分の考えをまとめさせる。 ○学び合いの場の充実を図る。グループで、いちばん適切な解答を生徒同士で選ばせる。そして、いちばん適切な解答を書いた生徒が、どうしてその解答を導いたのか説明する。 ※交流を通して読みを深める。 ○大切な内容の読み取りや表現の仕方については、教師がポイントを再度取り上げ、徹底指導を行う。 ○板書には、徹底指導したい内容を書くようにする。 ○学び合い（交流）を通して、納得した考えは、自分のノートに朱書きで書き加える。 ○内容及び表現の仕方での自分の考えを書くことができたかを確認する。 評価【表現の仕方について】 B 「事実と考察」、「問いと答え」等、表現の仕方を一つ気づくことができる。 A 「事実と考察」、「問いと答え」等、表現の仕方を二つ以上気づくことができる。 評価【内容について】 B 根拠を示し、内容について自分の考えを述べるができる。 A 根拠を明確にして、友達が納得するように自分の考えを述べるができる。	フラッシュカード ノート 挙手
終末 5分	7 本時のまとめをし、次時について知る。	T 今日第2のまとまりの後半を読んで話合いました。次の時間は第3のまとまりを読んで筆者の意見をみんなで読み取っていきたいと思います。	○生徒のがんばりを認め、次時につなげる。 ○本時の自己評価を行う。 ・内容の読み取りはできたか。 ・表現の工夫は分かったか。 ・自分の考えを述べたか。 ・ノートに新出漢字を使って書いたか。	学習計画表